

contents

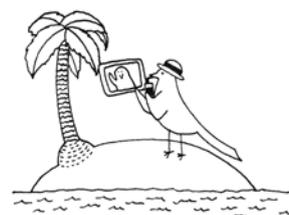
[コラム]

離島での ICT 活用教育
…平野秋一郎

[解説]

若い突出したセキュリティ人材育成に向けて
— IPA セキュリティ・キャンプと今後の取り組み—
…神島万喜也

[解説]

上智大学における情報フルエンシー系科目
設置までの経緯と経過 (前)
…曾我部潔, 田村恭久, 高岡詠子 Column

離島での ICT 活用教育

「使わないから返そうと思ってるんですよ」と先生はにこやかに言う。ICT 活用教育で、実物投影機の活用を持ち出した時だった。「えっ、あるんだ」と驚いた。以前、教育長に電子黒板の導入について相談され、「初心者には電子黒板より実物投影機が有効」と言ったばかりだったからだ。教育長は実物投影機を知らなかったのだ、ないのだと思っていた。

別の先生に話をしたら、「PC を入れると研究だの報告だの忙しくなる」「PC で授業がうまくなるわけではない」と迷惑そうな顔をする。待てよ、どこかで聞いた…プレイバック。あれは十数年前の、東京の学校の先生のセリフ…。

沖縄県石垣島の学校での会話である。情報機器が学校になじんでいない。

石垣島は日本の西端、八重山諸島にある。沖縄県ではあるが、那覇から 400km、飛行機で 1 時間の離島である。竹富、西表など八重山の島々には、石垣からさらに船で渡る。へき地教育振興法の 3～5 級の地域である。だからこそネット活用は不可欠だろうと思うが、そのための環境が整っているとはいえない。ネットワークインフラは一応整備されているが、教員の知識、技術、意欲が不足しているのが現状だ。台湾とテレビ電話で交流、電子黒板を使った授業などの取り組みはあるが、一部にとどまっている。

先生や教育委員会の職員と話しても、情報機器を活用した教育はどんなもので、授業でどのように活用していくか、といったことに関心がない。いや、考える基盤がないというのが適切かもしれない。情報教育、授業での ICT 活用、電子黒板やデジタル教科書という概念は知っているけれど、どうしたらいいかわからない、機器の操作もできないという状態である。

十数年前の東京で感じたのと同じだ。ICT 活用、情報教育の実情、具体例に関する情報が少ないので、そのメリットもデメリットも知らない。知らないから判断できない、関心がわからない、という感じである。関心のある教員や教育委員会の職員は、実例を見せたい、教員の研修をやりたいと言うが、離島ではその人材も機会もないのが実情である。

ある教育評論家が「ICT を活用した教育は基本的人権の 1 つだ」という趣旨のことを言っていた。その通りだと思う。このままでは島の子どもたちが社会に出たとき、同じスタートラインに立てない。島の先生方、保護者に ICT を活用した教育の現状を示す取り組み、先進校のサポートが必要と、強く感じた。

平野秋一郎 (放送大学沖縄学習センター)